

## 「地域と伝統文化」教育プログラム

プログラム実施担当者・准教授 山岸 公基

### ■大学院教育改革支援プログラムと本学の取り組み

大学院教育改革支援プログラムは、大学院教育の質化を目的として本年度より新しく採択交付されることとなった補助金制度です。本学からは、全学的支援のもと、大学院教育実践開発専攻伝統文化・文化財教育系、異文化理解教育系が進めてきた、地域の伝統文化とその源流に関する最新の教育内容学の成果に基づく教材開発、教授法・学習法開発の実績と今後の計画が評価され、平成21年度までの3カ年度にわたる取り組みに補助金が交付されることとなりました。

### ■文化財・異文化の教育力を掘り起す

「伝統文化」の内容は広く多岐にわたりますが、本学の「地域と伝統文化」教育プログラムは、研究・教育内容として奈良の考古・美術工芸に力点を置く伝統文化・文化財と、諸外国(本学の場合は主に留学生)との対話・相互理解を重視する異文化理解の二つの系によって担われるところに特色を持っています。二つの系は、たとえば奈良の仏像に接し感動して伝統文化に目を向ける、あるいは奈良に学ぶ留学生が体現する異文化と日本の伝統文化との意外な共通性に驚く、といった事例に示されるように、奈良に代表される地域の文化的な底力(五感を触発する力、教育力とも言い換えられるかも知れませんが)を掘り起こしつつ、各人にとつての伝統文化の意味・価値を主体的に、あるいは相対化しつつ形成してゆくプロセスが共通しています。しかもそれが、奈良で学び、現代及び将来の国際化社会を支えてゆく大学院生に、専門分野の教育・研究に加えてぜひ身につけてほしい力量の主な一つであることも首肯していただけたと思います。

### ■全学に開かれ、発信にも重きをおく教育プログラム

教育学研究科内の一専攻向けといった枠に留まらず、全学に開かれた教育プログラムとして「地域と伝統文化」教育プログラムは構想されています。今年度後期から新たに展開しているプログラムの共通コア科目「世界の中の奈良」も、伝統文化・異文化の教育力を活用した実践体験・実地研修と座学とを往還する授業科目で、教育実践開発専攻生だけでなく、教科教育専攻生や留学生も興味を持ち受講しています。来年度前期からは「伝統文化発信法」1、2、3が新規授業として加わり、「学び、理解する」ことに加え伝統文化を「発信すること」にも特色を打ち出してゆく予定です。またこのプログラムにより、従来から本学大学院で展開されていた地域と伝統文化に関する授業

## 幼保統合の「保育実践知」教育プログラム

プログラム実施担当者・准教授 横山真貴子

### ■「保育実践知」教育プログラム

これからの幼児教育の担い手には、幼保を統合する「保育実践知」が必要です。今回採択されたプロジェクトは、その教育プログラムを開発します。奈良教育大学が奈良佐保短期大学と協働し、2年間の計画で実施します。

保育とは、子どもの姿(発達)と保育内容、それに子どもとの相互関係を踏まえ、刻々に判断し行動していく営みです。こうした保育の力量を私たちは「保育実践

科目が深化科目として東なられ、専門領域の内容の深さと教科横断的なヴィジョンとを併せ持つ人を社会に送り出せると考えています。アジアに目を向けた連続講座の開講や、アジアの教育大学とのネットワークの構築も視野に入れています。「地域と伝統文化」教育プログラムへのご理解と温かいご支援を賜りますよう、取り組み担当者の一人としてお願い申し上げます。



「世界の中の奈良」 天理・塚穴山古墳 実地見学

知」と呼んでいます。

今、保育現場では、幼保一体化施設である「認定こども園」制度がスタートするなど、従来の幼稚園・保育所といった枠を超えて、2つの実践を統合的に展開する新たな力量が求められています。本プロジェクトは、こうした社会的なニーズに応えていこうとするものです。

### ■地域で保育者を養成します

「保育実践知」は大学で学ぶだけでなく、実際に保育を見たり、自分の身体を動かして、実践に参加する、

# 大学の取り組み

奈良教育大学は「ユネスコ協同学校」に加盟しました。日本ではこれまでに20校あまりの小学校、中学校及び高等学校が加盟していますが、大学としての加盟は日本で最初です。

ユネスコは国連専門機関として、教育・科学・文化の協力と交流を通じた国際平和と人類の福祉の促進を目的として設立され、その目的に基づき活動を行っています。

「ユネスコ協同学校 UNESCO Associated Schools Project Network: ASPnet」は、ユネスコが推進している理念を学校現場で実践することを目的としています。その活動の内容は次の2点です。

● ASPnetを利用して、世界中の学校と生徒間・教師間で交流し、情報や体験を分かち合う。

● 地球規模の諸問題に若者が対処できるように新しい教育内容やその手法の開発、発展を目指す。

研究テーマとしては、以下の4分野を基本としています。

- 1・地球規模の問題に対する国際システムの理解
- 2・人権、民主主義の理解と促進
- 3・異文化理解
- 4・環境教育

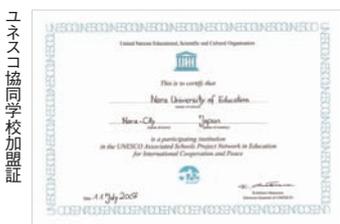
本学は教員養成を主目的とする大学として、教育・研究の基礎的水準の維持と向上に努めてきましたが、さらには教育・研究を通じた国際貢献を強く意図してきました。また、国立大学の法人化以降は、特色ある大学としての存在が強く意識されるようになりました。本学は、これまで30年以上にもわたって人権教育の歴史と成果があり、日本及び世界の民主主義の普及

と徹底に寄与してきました。また、奈良という自然と伝統文化に恵まれた地域にある大学として、環境教育、文化教育も推進してきました。

こうした基礎をもとに、さらに国際的な教育・研究へとレベルアップするために、ユネスコ協同学校に加盟し、世界の各地域及び学校との連携を進め、地球規模での大学としての貢献を図ることにしました。

本学では、大学の教育・研究のキーワードとして「世界遺産」をあげており、日本でも最多の世界遺産を有する奈良県にある大学として、ユネスコが世界的規模で進めている世界遺産の保全・保護に関する環境教育及び文化教育への取り組みを、加盟以前よりいち早く進めてきました。

世界遺産の保全・保護は単に世界遺産に対して向けられるだけのものではなく、先にあげたユネスコ協同学校の4分野の基本テーマに通じることです。



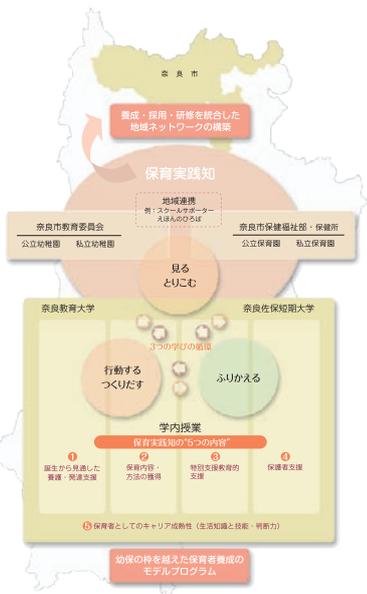
## ユネスコ協同学校に加盟

副学長 (国際交流・地域連携担当)

淡野 明彦



三笠保育園での「出張えほんのひろば」



その体験を振り返るといった経験を積み重ねることによって、よりいっそう身につきます(3つの学びの循環)。

本プログラムでは、奈良市教育委員会並びに保健福祉部と連携し、学生が大学と幼稚園・保育所・連携園を往き来しながら、現職保育者、大学教員とともに学びを深めます。

学びの内容は、今、特に保育者に必要だと考える次の5つを取り上げます。

- ①「誕生から見通した養護・発達支援」、②「保育内容・方法の獲得」、③手厚い援助を必要とする子どもへの「特別支援教育的支援」、④保育現場から要請が高い「保護者支援」、

### ■次年度に向けて

採択が決まった10月以降、奈良教育大学がこれまでに積み上げてきた学内授業と地域連携活動を見直し、「3つの学びの循環」と「5つの内容」を組み込んだ授業や活動に着手しています。このプロジェクトを通して、大学、行政、保育現場が手を結ぶ、養成・採用・研修を統合した地域ネットワークを構築していきます。

さらに①から④までの学びを支えるものとして⑤「保育者としてのキャリア成熟性(生活知識と技能・判断力)」です。これらの学びを学内授業と保育現場との連携活動のなかに組み込み、現職教員の研修を兼ねながら進めていきます。